

海外に目を向けると…

サッカーの北中米3カ国大会が開催され、日本の代表チームは決勝トーナメント1回戦でブラジルに惜しくも敗れました。日本がグループステージで対戦したチームは、オランダ、チュニジア、スウェーデンの3カ国でした。引き分けに終わったオランダは、日本とどんなつながりがあるのでしょうか。

羽島市は、木曽川と長良川に囲まれた土地です。明治時代に木曽川と長良川と揖斐川の流れを整えた三川分流工事を指揮したのが、ヨハネス・デ・レーケというオランダ人土木技師です。海津市の海津タワーの展望台から濃尾平野を眺めると、河川改修工事による川の流れがよく分かります。小学校4年生の社会科で学習をします。オランダは低地で、チューリップや酪農が盛んな国です。

本校では令和5年度から6年生が、外国語科の授業の一環として、スリランカ（正式な名称は、スリランカ民主社会主義共和国）のシギリヤ・セントラル・スクールとオンライン交流を続けています。今年度は9月に予定していて、4年目の交流になります。外国語の教科書で習った単語や文をもとに、会話を進めます。このシギリヤ市はスリランカの中央部に位置していて、世界遺産「シーギリヤロック」が近くにあり、毎年、オンライン交流では、日本の学校とスリランカの学校の違いを学んだり、日本とスリランカの名所を紹介したりします。

一方、フランスでは6月から高温状態が続いていて、パリ市内では41℃を超える日もあるそうです。パリはもともと涼しい気候のため、エアコンのついていない家もあり、暑さへの対策は進んでいません。この熱波は、ヨーロッパ全体に広がっているようです。5年生の総合的な学習の時間では毎年、環境に関わる学習をしていて、今年度の5年生は、温室効果ガスやアユの生態について学びを深めているところです。

羽島市では、7月17日を夏休み前の最終登校日として、翌日から夏休みに入ります。きっと子どもたちの夏休みの過ごし方も、国によって大きく異なるのではないかと思います。この夏休みの機会を利用して、新聞やテレビ、ラジオやインターネットなどで目にする外国に、少しだけ関心をもってみてはいかがでしょうか。「どんな国かな」、「どんな世界遺産があるのかな」、「有名な食べ物は何かな」、「どんなスポーツが有名なのかな」など、子どもたちは興味をもって調べるのではないのでしょうか。

将来、就職して仕事を始めたら外国人と一緒に仕事をすることもあるかもしれません。現在、コンビニの店員さんが外国人ということも珍しくなくなりました。また将来お子さんが、海外で仕事をすることもあるでしょう。オランダ人技師のヨハネス・デ・レーケのように、技術を活かして外国の人の役に立つ生き方も素晴らしいと思います。サッカーのワールドカップの大会結果が大きく報道されるたびに、海外への関心が高まるのではないかと感じています。また、日本の文化や伝統のよさに改めて気付くこともあると思います。

夏休み明けの登校日は、8月31日です。皆様と元気な笑顔で会えることを願っています。7月まで本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。 校長 花村伸二